

# 宮城聡が「エクサン・プロヴァンス音楽祭」に続き、ベルリン国立歌劇場で モーツァルトのオペラ『ポントの王ミトリダーテ』を演出！

コロナ禍での延期を経て、今秋12月4日に開幕  
ベルリン国立歌劇場が、280年に及ぶ歴史上初めて、日本人演出家を招聘

## プレス関係各位

平素より、SPAC-静岡県舞台芸術センターに格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

来月、SPAC 芸術総監督の宮城聡が、ベルリン国立歌劇場でオペラ『ポントの王ミトリダーテ』(モーツァルト作曲)を演出いたします。本作は2020年11月に初演を迎える予定でしたが、コロナ禍で延期となり、このたびようやく実現の運びとなりました。ベルリン国立歌劇場が日本人演出家を招くのは同歌劇場280年の歴史上初めてのことで、日独の文化史にエポックを画す快挙です。

モーツァルトが14歳の時に作曲したこのオペラでは、紀元前1世紀、小アジアの国ポントの王ミトリダーテをとりまく戦争と人間模様が、まばゆいばかりの音楽のなかで描かれます。繰り返される戦争と復讐の連鎖。宮城はこの物語に、第二次世界大戦末期の日本を重ねました。「死者たちの鎮魂の儀式」としてこの作品を描くとき、そこには、希望というあらたな光がみえてきます。

今回指揮をつとめるのは世界的に活躍するマルク・ミンコフスキ。タイトルロールに“この10年で最も並外れたテノールの才能”(オペラオンライン)と評されるペネ・パティが登場するほか、アナ・マリア・ラビン、ポール・アントワーヌ・ベノス＝ジャンら気鋭の顔ぶれが並びます。また、クリエイティブチームとして、宮城とともに30年近く共同作業を行い、代表作『マハーバーラタ』・『アンティゴネ』・新作歌舞伎『極付印度伝 マハーバーラタ戦記』(2017年歌舞伎座)・オペラ『ルサルカ』(2017年日生劇場)、そして今年7月の「エクサン・プロヴァンス音楽祭」での『イドメネオ』を手掛けてきた木津潤平(空間構成)、高橋佳代(衣裳)らが参加します。

アヴィニオン演劇祭(2017年)、ニューヨーク(2019年)での『アンティゴネ』公演など、世界的にも高く評価される演出家・宮城聡。『イドメネオ』に続くヨーロッパでのオペラ演出第二作となる本公演にどうぞご期待ください。

## オペラ『ポントの王ミトリダーテ』 ベルリン国立歌劇場 バロックターゲ 2022(バロック週間)

作曲: ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト

台本: ヴィットーリオ・アマデオ・チーニャ＝サンティ(ジャン・ラシーヌの悲劇による)

指揮: マルク・ミンコフスキ / 演出: 宮城聡

空間構成: 木津潤平 / 美術: 深沢襟 / 衣裳: 高橋佳代

照明: Irene Selka / 振付: 太田垣悠 / ドラマトウルク: Detlef Giese

演奏: レ・ミュージシャン・デュ・ルーブル(ルーブル宮音楽隊)

◎日時(現地時間):

12月4日(日)18:00、7日(水)19:00、9日(金)19:00、11日(日)18:00

◎会場: ベルリン国立歌劇場(ドイツ)

◎上演言語: イタリア語上演(英語およびドイツ語字幕)

<https://www.staatsoper-berlin.de/en/veranstaltungen/mitridate-re-di-ponto.9466/>



ベルリン国立歌劇場での稽古の様子(2020.10) ©Jumpei Kiz



『ポントの王ミトリダーテ』舞台美術

## あらすじ

紀元前60年頃、黒海沿岸のポントス(ポント)の王ミトリダーテは、ローマ軍との戦いに出陣する際に、若い許嫁のアスパージアを2人の息子に託し、自分が戦死したと嘘の報告を流して息子達のアスパージアに対する態度を知ろうとする。かねてからアスパージアに思いを寄せていた長男ファルナーチェは、強引に彼女に結婚を迫り、彼女を守ろうとする次男シーファレと対立する。シーファレと惹かれ合うアスパージア、そこへ帰還するミトリダーテ。シーファレは父への忠誠心と愛の間で苦しむ。

## プロフィール



## 宮城 聡 MIYAGI Satoshi

演出家。SPAC-静岡県舞台芸術センター芸術総監督。東京大学で小田島雄志・渡邊守章・日高八郎各師から演劇論を学び、90年ク・ナウカ旗揚げ。国際的な公演活動を展開し、同時代的テキスト解釈とアジア演劇の身体技法や様式性を融合させた演出で国内外から高い評価を得る。2007年4月SPAC芸術総監督に就任。自作の上演と並行して世界各地から現代社会を鋭く切り取った作品を次々と招聘、「世界を見る窓」としての劇場づくりに力を注いでいる。14年7月アヴィニオン演劇祭から招聘された『マハーバーラタ』の成功を受け、17年『アンティゴネ』を同演劇祭のオープニング作品として法王庁中庭で上演、アジアの演劇がオープニングに選ばれたのは同演劇祭史上初めてのことであり、その作品世界は大きな反響を呼んだ。他の代表作に『王女メデア』『ペール・ギュント』など。04年第3回朝日舞台芸術賞受賞。05年第2回アサヒビール芸術賞受賞。平成29年度(第68回)芸術選奨文部科学大臣賞(演劇部門)受賞。19年4月フランス芸術文化勲章シュヴァリエを受章。

## 木津 潤平 KIZ Junpei

建築家。東京大学大学院建築学専攻修了。(株)木津潤平建築設計事務所代表。明治大学建築学科兼任講師。アヴィニオン演劇祭での宮城聡演出『マハーバーラタ』(2014年 ブルボン石切場)『アンティゴネ』(17年 アヴィニオン法王庁中庭)など、野外や個性的な空間における「場の力」を読み込み、その力を最大限に活用して劇場空間へと再構築し、戯曲の世界観を表現する独特の空間構成スタイルを確立している。

## 高橋 佳代 TAKAHASHI Kayo

舞台衣裳デザイナー。武蔵野美術大学視覚伝達デザイン科卒。1998年舞台衣裳製作会社を退社後、フリーの舞台衣裳デザイナーとして活動。2004年有限会社インプレッシブ設立。舞台衣裳をはじめ、ミュージシャンのPVやライブ衣裳、CM関係の衣裳デザイン製作など手がける。宮城聡演出作品では『王女メデア』『マハーバーラタ』『オセロー』『アンティゴネ』など。現在はハワイ在住、日本とハワイを往復して活動中。

## 深沢 襟 FUKASAWA Eri

舞台美術家。武蔵野美術大学で舞台美術家・高田一郎、小竹信節に師事する。06年よりSPACに参加。戯曲、演出のイメージのみならず、立ち回る俳優との関係性から空間を創り上げる舞台美術が特徴。近年は、SPAC以外の舞台へも活動の幅を広げている。SPACでは、『グリム童話～少女と悪魔と風車小屋～』『真夏の夜の夢』(演出:宮城聡)などのほか、『変身』(演出:小野寺修二)、『病は気から』(演出:ノゾエ征爾)などの舞台美術を手がける。

## 太田垣 悠 OTAGAKI Yu

9歳よりバレエをはじめ、15歳で単身渡仏。リヨン国立高等コンセルヴァトワールを卒業後、リヨンオペラ座バレエ団やスイスのグラン・テートル・ドゥ・ジュネーブで10年以上にわたり幅広い作品を踊る。2016年よりフリーとして様々な振付家の作品を踊るかたわら、フランスのダンス教師国家資格を生かしプロ、アマチュアにコンテンポラリーダンスやバレエを教える。17年に帰国後、SPAC-ENFANTSプロジェクトにて振付アシスタントを務める。

【現地劇場窓口】モルテン・ミッケルセン氏 Mr. Morten Mikkelsen Künstlerischer Produktionsleiter

E-mail address: M.Mikkelsen@staatsoper-berlin.de

STAATSOPER UNTER DEN LINDEN

Unter den Linden 7 10117 Berlin

Tel: + 49 (0)30 203 54 323 Fax: + 49 (0)30 203 54 206 www.staatsoper-berlin.de

【SPAC窓口】制作部 大石多佳子、内田稔子、坂本彩子

Tel: 054 203 5730(静岡芸術劇場) / 054 208 4008(舞台芸術公園) Fax: 054 203 5732

E-mail: oishi@spac.or.jp(大石) / uchida@spac.or.jp(内田) / koho@spac.or.jp